



## 2024年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年3月28日

上場会社名 株式会社 銚子丸 上場取引所 東  
コード番号 3075 URL <https://www.choushimaru.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 満  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 仁科 善生 TEL 043-350-1266  
四半期報告書提出予定日 2024年3月28日 配当支払開始予定日 ー  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年5月期第3四半期の業績 (2023年5月16日～2024年2月15日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期第3四半期	15,808	11.1	1,429	207.3	1,445	151.4	794	112.7
2023年5月期第3四半期	14,229	13.0	465	223.7	574	△63.1	373	△61.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年5月期第3四半期	58.00	57.84
2023年5月期第3四半期	27.27	27.26

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年5月期第3四半期	12,220	9,024	73.6	655.82
2023年5月期	11,402	8,367	73.2	609.00

(参考) 自己資本 2024年5月期第3四半期 8,998百万円 2023年5月期 8,342百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年5月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2024年5月期	—	0.00	—		
2024年5月期 (予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2024年5月期の業績予想 (2023年5月16日～2024年5月15日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,115	9.3	1,367	104.3	1,386	74.5	846	51.7	61.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P.6「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年5月期3Q	14,518,000株	2023年5月期	14,518,000株
② 期末自己株式数	2024年5月期3Q	797,376株	2023年5月期	819,486株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年5月期3Q	13,699,583株	2023年5月期3Q	13,698,514株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の心理的な後遺症から解放されて経済活動の正常化が進む中で、雇用・所得環境の改善、インバウンド需要の増加等を背景とした回復基調となりました。一方で、原料・資源コストの高騰、エネルギー価格の高止まり等を背景とした物価上昇や、景気急回復に伴う労働力不足が顕在化し、またウクライナ情勢・中東情勢の不透明感や、中国経済の先行き懸念など国内外で不安定な状況が続きました。

外食業界におきましては、コロナの呪縛から解放される中でイートイン需要が急回復し、業界全体の営業活動が活発化しました。一方で、物価上昇基調への転換に伴って消費者の生活防衛意識が高まる中で、一昨年から続く業界全体での価格改定の動きにも落ち着きが見られました。

このような状況において、当社は、通常の月別イベントに加え「千葉の健康美容銘豚「林SPFポーク」」をはじめ「ミート」にこだわった特別メニューを揃えた『クリスマスミートフェア（2023年11月16日～同年12月25日）』、及び「いくらハート寿司」や「ハート型いちごパンナコッタ」等、「ハート」をテーマとした『バレンタインフェア（2024年2月10日～同月14日）』を開催し、リピート客数の増大並びに新規顧客の獲得を図りました。

店舗開発につきましては、2023年6月に「すし銚子丸横浜六ツ川店」（横浜市南区）を新規に出店しました。一方で、雇用が逼迫し人件費が上昇する中で、限られた人的資源の有効活用とより効率的な店舗網の構築の観点から「すし銚子丸南浦和店」（2023年6月）、「同 三鷹店」（同7月）、及び「同 浦和木崎店」（同7月）を閉店しました。同様に、コロナ収束後のテイクアウト需要急減により店舗採算の確保が難しくなった「すし銚子丸テイクアウト専門店荻窪店」（2023年6月）、「同 初台店」（同7月）、「同 落合店」（同7月）及び「同ペリエ海浜幕張店」（同10月）を順次閉店しました。この結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は87店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は、イートイン客数の急回復及び価格改定の定着等により、158億8百万円（前期比11.1%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に加えて、価格改定やフルオーダー化に伴う廃棄ロス減少等による原価率の低下に加えて、コロナ下に推進してきた機械化・省力化等による利益体質の改善努力が奏功し、営業利益は14億29百万円（同207.3%増）、経常利益は14億45百万円（同151.4%増）となりました。一方で、四半期純利益はコロナ後の業績回復が計画を下回った店舗について1億70百万円の減損損失を計上した結果7億94百万円（同112.7%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### 資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ8億17百万円増加し、122億20百万円（前事業年度末比7.2%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前事業年度末に比べ5億11百万円増加し、81億82百万円（同6.7%増）となりました。主な内訳は、現金及び預金の増加6億48百万円であります。

固定資産は、前事業年度末に比べ3億6百万円増加し、40億38百万円（同8.2%増）となりました。主な内訳は、建物（純額）の増加1億52百万円及びソフトウェア等無形固定資産の増加1億79百万円であります。

##### (負債・純資産)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ1億60百万円増加し、31億95百万円（前事業年度末比5.3%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動負債は、前事業年度末に比べ1億62百万円増加し、27億24百万円（同6.3%増）となりました。主な内訳は、短期借入金の増加1億5百万円、未払法人税等の増加3億77百万円及び買掛金の減少2億10百万円、未払金の減少1億52百万円であります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1百万円減少し、4億71百万円（同0.4%減）となりました。主な内訳は、資産除去債務の減少1百万円であります。

純資産は、前事業年度末に比べ6億57百万円増加し、90億24百万円（同7.9%増）となりました。主な内訳は、利益剰余金の増加6億30百万円であります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月期の通期業績予想につきましては、2023年12月28日に発表した予想から変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年5月15日)	当第3四半期会計期間 (2024年2月15日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,180,759	6,829,245
売掛金	839,219	864,530
原材料及び貯蔵品	224,772	301,107
その他	425,825	187,152
流動資産合計	7,670,576	8,182,035
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,310,959	1,463,574
その他(純額)	884,225	891,023
有形固定資産合計	2,195,184	2,354,598
無形固定資産	106,639	285,742
投資その他の資産		
繰延税金資産	366,867	366,867
敷金及び保証金	858,705	830,503
その他	204,866	200,778
投資その他の資産合計	1,430,439	1,398,149
固定資産合計	3,732,264	4,038,490
資産合計	11,402,841	12,220,526
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	675,610	465,547
短期借入金	192,000	297,000
未払金	1,445,304	1,293,154
未払法人税等	—	377,879
賞与引当金	89,000	147,510
株主優待引当金	23,687	19,791
ポイント引当金	—	3,549
その他	136,656	120,075
流動負債合計	2,562,259	2,724,507
固定負債		
資産除去債務	310,808	309,086
その他	162,000	162,000
固定負債合計	472,808	471,086
負債合計	3,035,067	3,195,594

(単位:千円)

	前事業年度 (2023年5月15日)	当第3四半期会計期間 (2024年2月15日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	469,761	476,653
利益剰余金	8,469,956	9,100,138
自己株式	△697,275	△678,493
株主資本合計	8,342,442	8,998,297
新株予約権	25,331	26,634
純資産合計	8,367,773	9,024,931
負債純資産合計	11,402,841	12,220,526

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年5月16日 至 2023年2月15日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年5月16日 至 2024年2月15日)
売上高	14,229,605	15,808,178
売上原価	6,041,817	6,166,394
売上総利益	8,187,788	9,641,783
販売費及び一般管理費	7,722,673	8,212,345
営業利益	465,114	1,429,438
営業外収益		
受取利息	726	680
協賛金収入	5,238	5,790
仕入割引	941	2,609
雇用調整助成金	1,072	108
受取協力金	129,222	—
その他	8,530	7,707
営業外収益合計	145,731	16,896
営業外費用		
支払利息	675	228
訴訟損失引当金繰入額	35,000	—
雑損失	207	924
営業外費用合計	35,882	1,153
経常利益	574,963	1,445,182
特別利益		
固定資産売却益	—	367
新株予約権戻入益	322	2,580
特別利益合計	322	2,948
特別損失		
固定資産除却損	6,356	11,055
減損損失	9,930	170,428
特別損失合計	16,287	181,483
税引前四半期純利益	558,998	1,266,646
法人税等	185,410	472,083
四半期純利益	373,587	794,563

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。